

FD NEWS LETTER

自己点検・評価実施委員会

No.17

FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称です。本学では、授業アンケート、FD講演会など、各種FD活動を実施しています。

今回は、2024年度活動実施内容等についてお届けします。

『FDニュースレター』は、年次報告として、FDに関する情報を取り纏め、情報を共有することにより、それぞれの活動を組織的な活動へと発展させるための一助として発行しています。

2024年度 活動実施報告

FD講演会等の実施

（※組織的なFDとするために、各種委員会等と協働して開催）

☆全学教員協議会	2024年5月25日
☆全学FD研修会（春学期）	2024年7月20日
☆全学FD研修会（秋学期）	2025年2月28日
☆大学院FD研修会	2025年2月28日

をそれぞれ開催いたしました。

新規採用教員説明会

☆新任教員に対し、本学の建学の理念や教育研究に対する考え方、ディプロマポリシーの説明等、本学の教員として必要な事柄等に関する説明会を4/1に実施しました。

大学教育学会への参加

☆大学教育学会第46回大会（2024年6月8日-9日）
関西国際大学 神戸山手キャンパス1号館
参加者1名

公開授業

☆公開授業を実施しました。

「国文学講義①A」 2024年11月22日
「プレゼミ（国文学・中古）」 2024年12月9日
担当者同士で、相互に授業を参観し、各自の工夫、取り入れたい観点など報告書をまとめ、共有しました。

学生による授業アンケート(Web形式)

☆春学期：2024年7月10日-7月22日

秋学期：2024年12月11日-2025年1月20日

昨年同様、全学年を対象に、
Webアンケート形式にて実施しました。

（詳細はp.2）

教育改革に関するプロジェクト

☆今年度は7件のプロジェクトが実施されました。

- ・ 全学必修科目「データサイエンス入門」における、学習セッション「生成AIの利用方法、事例と注意点」について新設のための予備調査
- ・ 「日本語教員養成課程」カリキュラム見直しのための担当教員及び担当事務のワークショップ（春期・秋期 各1件）
- ・ 2025年度授業にむけた中国語教員によるFDワークショップ、情報交換会
- ・ 2025年度に向けての英語教育FD
- ・ 文学部基礎ゼミFD
- ・ 国際政治経済学部基礎ゼミFD

各種FD活動の報告

☆今年度は、基礎ゼミ担当教員、各外国語担当教員、教職課程担当教員をはじめとするFD活動報告がありました。

2024年度 学生による授業アンケートについて

全学年を対象に、要件を満たす授業*について、Webアンケート形式にて実施しました。
*個人が特定されないよう配慮のため、履修人数が5名以下（大学院科目では4名以下）の科目は対象外とするなど一定の要件を設けています。

		春学期		秋学期 (通年科目含む)	
実施科目数		学部科目	646	学部科目	621
		大学院科目	32	大学院科目	25
実施教員数	専任	66名		66名	
	非常勤	175名		171名	

春学期の回答率は、学部34.7%（2023年度春学期：32.2%）、大学院45.7%（同：38.1%）。秋学期の回答率は、学部27.9%（2023年度秋学期：23.2%）、大学院62.8%（同：34.5%）でした。

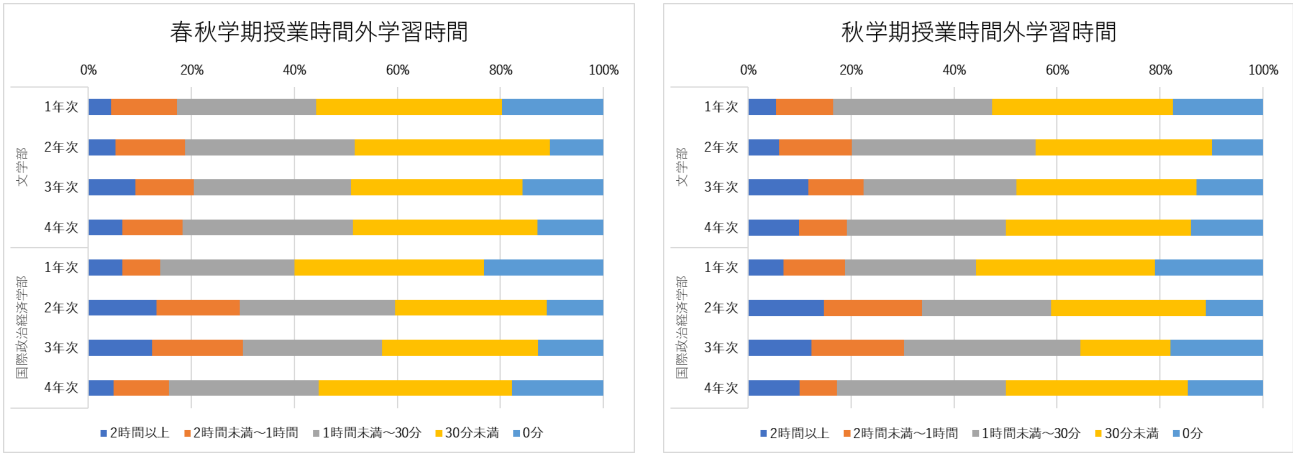
アンケートに回答している学生は授業への満足度が高い傾向にあり、回答率が低い学年（3年次生）で満足度の割合が93%、回答率が高い学年（1年次生）では86%となりました。

また、授業時間内に10分程度のアンケート回答の設定を教員へ依頼をしましたが、回答率は教員毎に大きな差が生じており、協力体制の構築が課題となっています。

授業アンケートは、教員にとっては授業の内容や進度、運営などを顧みるきっかけとなりますので、より多くの学生からの評価や意見を集めるための工夫や取り組みを行いたいと考えています。

授業アンケートでは、学生の学修時間・学修行動の把握を行うため、以下のような設問を設定しています。各学年における今年度の春・秋学期を通しての学修時間の集計を毎年行っています。

あなたは1回の授業に対し、平均してどの程度予習・復習・関係文献の読書などの授業時間外の学習をしましたか。
『授業時間外の学習』には、授業で課された課題・宿題、授業内容に関連して興味を持った記事・文献・図書等の読書、なども含まれます。



大学設置基準には「1単位の授業科目には45時間の学修時間が必要である」と記されています。現在多くの授業科目は1科目につき2単位と設定されており、その場合は90時間の学修時間が必要となります。

つまり、2単位で全15回の授業科目の場合、授業時間は30時間（1回90分÷2時間）で、90時間から30時間を差し引いた、60時間が授業時間外の学修すなわち事前・事後の学修ということになります。1回の授業について事前・事後学修は、60時間÷15回＝4時間となり、事前・事後ともそれぞれ最低2時間必要となります。

今年度は、2時間以上学修を行ったと回答した学生の割合は前年度に比べ増加傾向にあり、特に3年次生・4年次生の学生の増加割合がそれぞれ1.8倍、2.1倍と大幅に増加しました。また、学修時間が0分と回答した学生は前年度に比べ2年次生・3年次生で減少しています。実数で比較した場合でも、2時間以上学修を行った学生の人数は回答者の増加率と比べても増加しています。

1年次生は前年度との比較ではほぼ同じ傾向ではありますが、学年が上がる2年次以降では学修時間が増加しているということが読み取れます。

学生のモチベーションが向上するような授業の工夫や、シラバスに必要な事前事後学修のヒントを記載したことが、授業外の学修時間を増やす結果につながっているのではないかと推察されます。

2024年度 学生による授業アンケートについて

2024年度春学期に行った学生による授業アンケート結果に対する授業担当者のコメントシートから授業改善への取り組み事例を抽出して、大学全体レベルの授業改善の取り組みとして学内で共有しました。

以下、コメントに挙げられた各教員の取り組みの事例の一部をご紹介します。

授業科目によって回答数にはばらつきがありますが、教員が教育効果の手応えを感じたり、授業運営の改善点を見出したり、学生の学修成果や意欲を向上させるヒントを得られるとして授業アンケートは重要な教育改善の機会となっています。

2024年度春学期に実施した授業アンケートにおいて、教員からのコメントシート回収数（回収率）は、専任教員：40名（60.6%）、非常勤教員：94名（53.7%）でした。

歌やマンガなどの例をサンプルに相対化する視点を提示する、学生に朗読させたりするなど、学生を主体とした工夫をするとたいいてい学生はそれを喜び、生き生きとすることが確認できた。学生の生活と大学における高等教育を接続するのは、教員の創意工夫にあると思う。

インターネットで検索して出てきた画像や情報、実際のニュース等を教室で見ながら話しを進め、具体的にイメージしながら理解が深まるように工夫していきたいと考えている。

予習・復習や出席は、語学学習において非常に重要な役割を果たすので、その意義を繰り返し明確に伝えようと思う。また、一定の予習・復習時間の確保のため、宿題の提示方法や内容を工夫したいと考える。

読んでおくべき本をレベル別（及び進路別）に示したことが非常に好評であったので、毎回のテーマから派生したものを提案していきたい。

配布レジュメに空欄を作り手書きでポイントを書かせることで、授業に集中させるという取り組みをしている。

最初のアイスブレイクのお題で答えやすく個性が出やすい内容を選ぶことで、学生の参加度を上げられたと思う。

学生にはもっと積極的に声がけをし（特に欠席者に対する授業内容のフォローをし）、学生の理解度を確認し、板書やPCを用いて視覚情報の提供を増やすことで、より丁寧で、学生の理解度と効能感、及び学習意欲が高まるような指導を心がけたいと思う。

新たに解説動画の視聴や確認テストなどを行うことを通じて、興味関心の喚起と学生自身による理解度の把握を試み、一定の成果を得ることができたと思う。

毎回、リアクションペーパーを実施することで、文字のサイズ・声の大きさなど、すみやかに改善できる要望は、細かく聞いて改善をはかりたい。

秋学期全学FD研修会

2025年2月28日（金）に秋学期全学FD研修会を開催しました。
当日は、ハイブリッド開催で、教職員97名が参加しました。

2025年2月28日（金）16:10～18:00

講演：『大学における障がい学生への理解と支援の実際
～合理的配慮を含む必要な調整や教育のあり方を考える機会として～』

林 潤一郎 氏 （公認心理師・臨床心理士）
成蹊大学 学生サポートセンター（学生相談室）専任カウンセラー
兼 経営学部（心理学担当）教授

成蹊大学 学生サポートセンター（学生相談室）
専任カウンセラー兼経営学部教授であり、公認心理
師・臨床心理士の林潤一郎氏の講演が行われました。
障がい学生への合理的配慮の基本的発想と成蹊大
学における実際の連携体制を通して、必要な調整や
教育のあり方についてを考える良い機会となりました。



教員側に過度な負担とならない範囲で、教育の本質を損なうことなく個別の必要
かつ適当な変更や調整を行うという合理的配慮のポイントを整理し、実際の指導と
結び付けて考えることができました。

教員からの質疑応答も活発に行われました。



大学院FD研修会

全学FD研修会と同日の2025年2月28日（金）に大学院FD研修会を開催しました。
当日は、ハイブリッド開催で、52名が参加しました。

2025年2月28日（金）15:00～16:00

講演：『大学における教育DXと授業デザイン』

村上 正行 氏
大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 教授
兼 スチューデント・ライフサイクルサポート（SLICS）センター 副センター長

教育DXをめぐる社会的背景やアクティブラーニングのための授業デザインの取り組み、ピア・インス
トラクションや反転授業などの教育方法や教育ツールを紹介され、教育DXはデジタル化することが重要
なのではなく、大切なのはあくまで授業目標（到達目標）であり、これまでの教育のあり方を変革する
ことが重要であるという内容でした。



二松学舎大学

【お問い合わせ先】 二松学舎大学 大学改革推進課

TEL: (03)3261-1285

FAX: (03)3261-7413

E-mail: gakumu@nishogakusha-u.ac.jp